

2014年12月6日中間報告会（および富士ゼロックスの古地図披露）の開催報告

米澤 郁

2014年12月6日、6月に関ゼミにて行ったいわき市渡辺町での調査の報告を渡辺公民館で行いました。寒さも厳しくなってきた中で、調査に協力して下さった渡辺町の方々や、富士ゼロックスの方々にご足労いただき、調査の簡単なまとめと成果の報告をさせていただきました。限られた時間の中での簡易なものでしたが、私たちの報告に興味を持って聞いてくださり、また新たな情報を提供していただくなど、短いながらも非常に有意義な時間となりました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

報告会の中でもっとも印象に残った場面は、富士ゼロックスの方が作成した明治時代の地図の複製を見た渡辺町の方々が、その地図を見て自分の家を探したり、現在の地形との変化を比べたり、子供の頃の思い出を語り合ったりと、和気あいあいとお話しされていたことです。前回の調査のときに地図の原本を見せていただきましたが、そのとき伺ったお話によれば、地図はとても古く傷みが激しいため、広げるのにも細心の注意を払ってでないと難しく、虫食いも多く人目に晒せる状態ではないとのことでした。しかし今回地図が複製され、地域の人々の目に触れるのが容易になったことで、今後この地図を前に更なるお話が思い起こされるのではないかと思います。

前回の調査においても、地図や写真などを見せていただく機会が多くありました。聞き取り調査ももちろん有意義なものですが、地図や写真を前にしてのお話は、ある種の生々しさに満ちたものであり、記憶や歴史を「形に残す」ということは、大きな価値のあることだと感じました。私たちも現在、いわきでの調査を報告書という形に残す作業を進めています。ささやかながらその結果が、少しでも渡辺町の記憶をかたちにするお手伝いとなれば幸いです。